

# 2018年度決算説明会

2019年4月26日  
株式会社村田製作所



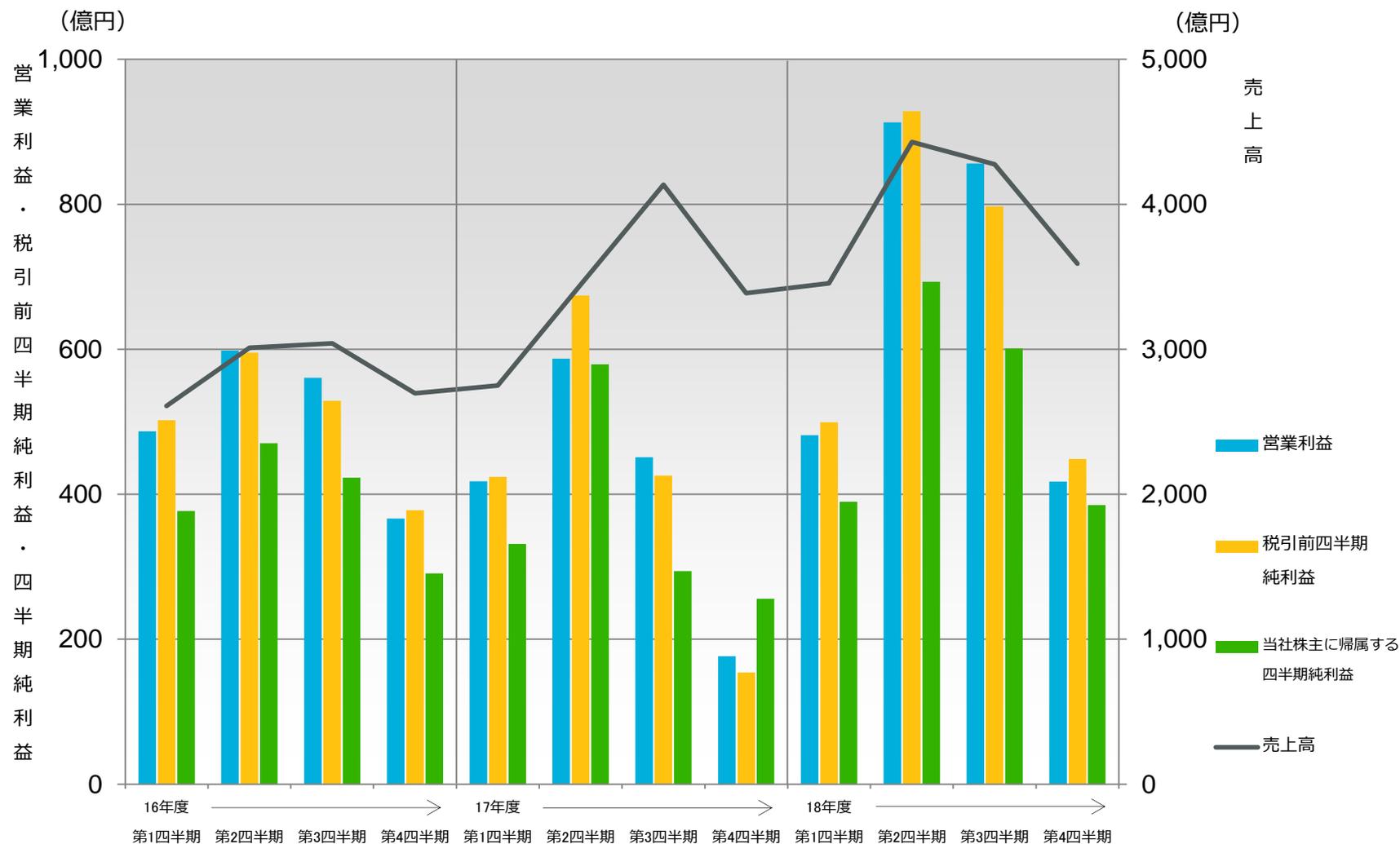
- 2018年度の売上高は、幅広い用途でのコンデンサの増加、2017年9月に取得が完了したリチウムイオン二次電池事業の売上計上により、前年比14.8%の増加。
- 同 営業利益は、モジュール事業において生産合理化が進んだことで余剰となる旧型設備等の減損損失177億円を計上したものの、操業度の上昇や原価低減の取り組み、コンデンサの価格是正等により、同比63.4%の増加。
- 同 売上高と当期純利益は過去最高を更新。

- 2019年度の業績予想は、市場での電子機器の生産調整や電子部品の在庫調整もあり、前半は需要に勢いが欠けると予想され、売上高は前年比ほぼ横這い。
- 操業度の低下や減価償却費の増加により、営業利益2,200億円と同比17.5%の減益を計画。
- 2019年度の設備投資は、増産合理化投資、中期的な生産スペース確保のための工場棟の建設等、3,000億円を計画。
- 2019年度の年間配当金は1株あたり94円（中間配当金47円、期末配当金47円）と前年比で実質同額を予定。

# 1. 2018年度 業績概要

2018年4月～2019年3月  
連結累計期間

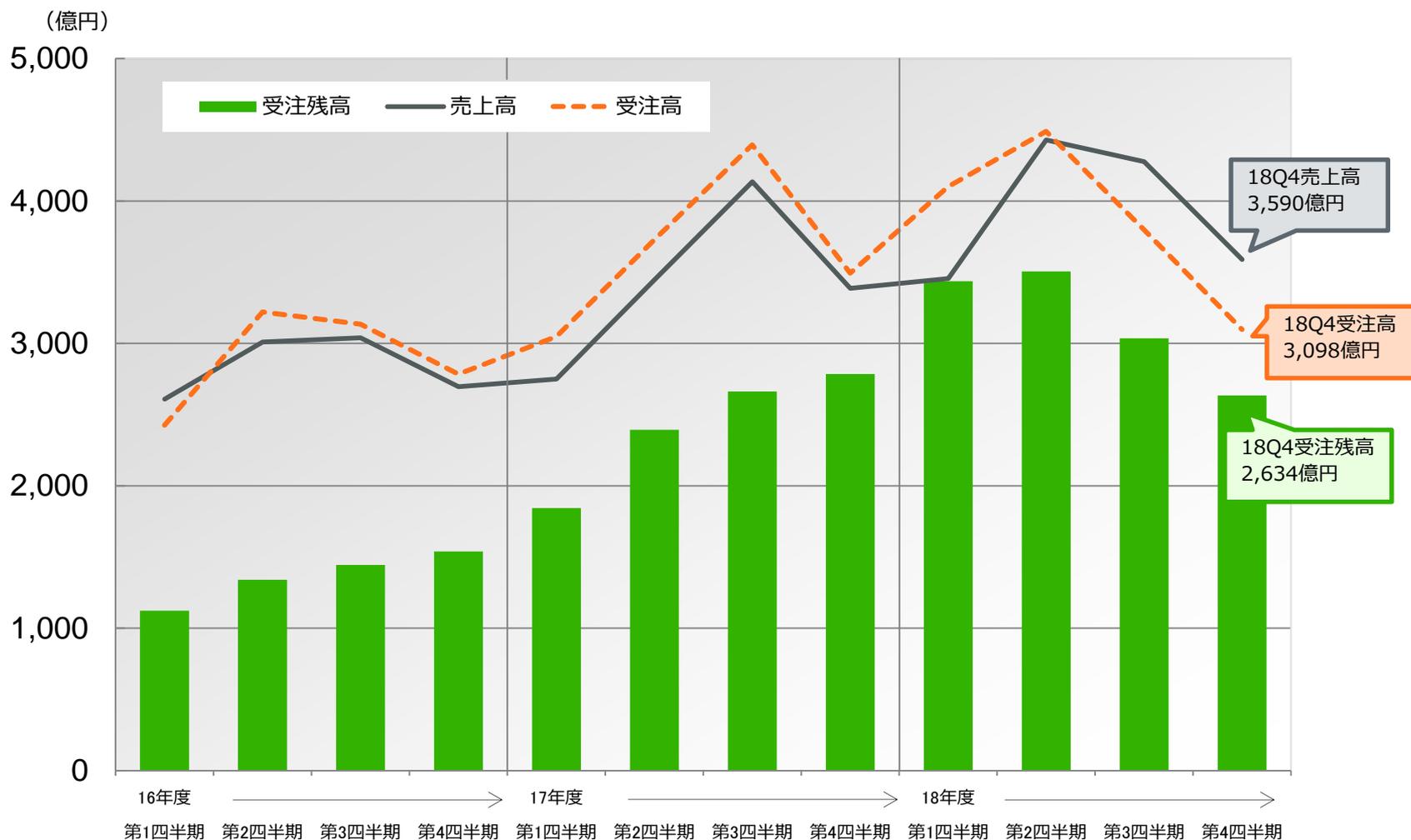
# 業績推移（四半期）



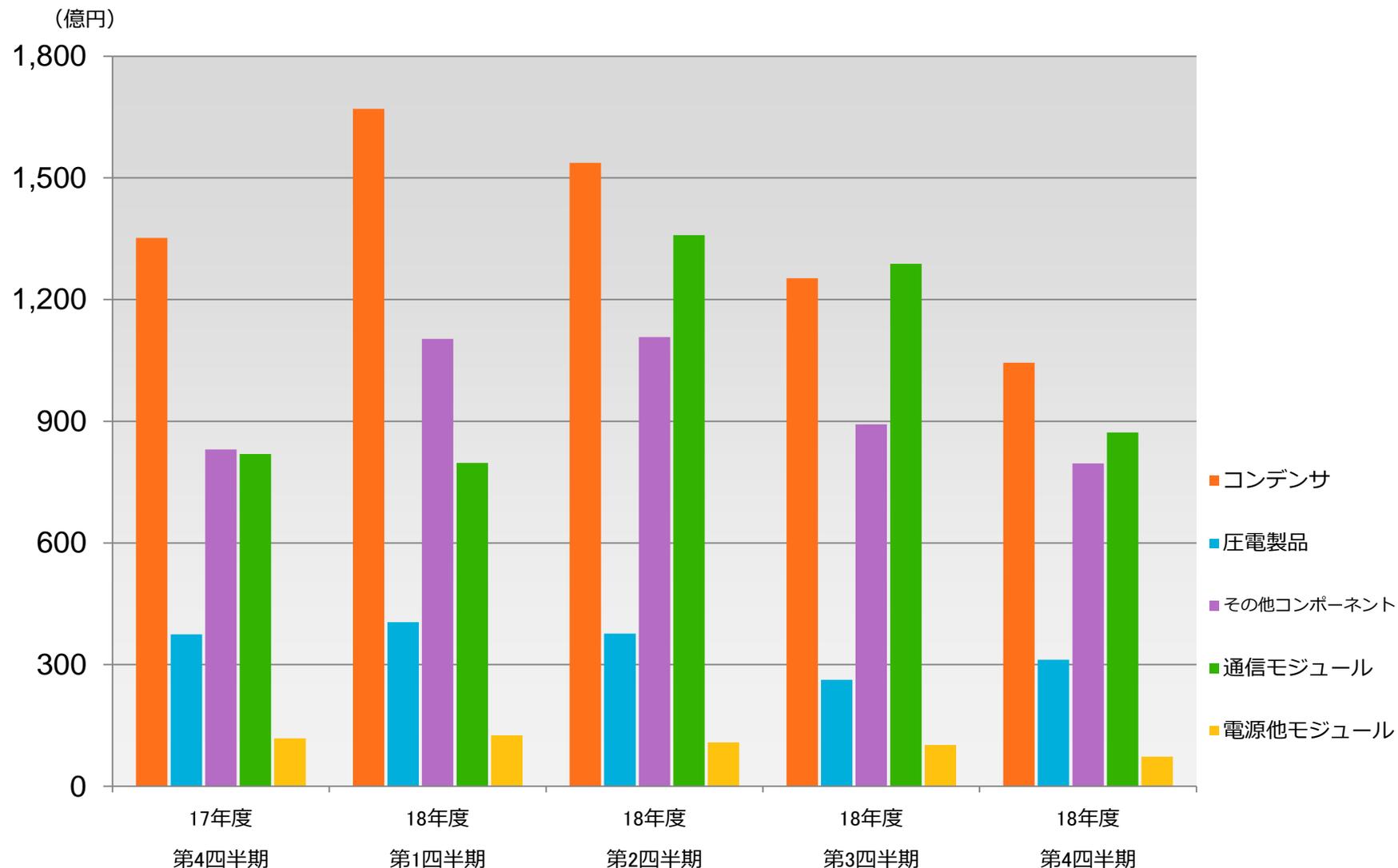
# 業績概況（2018年度通期）

	2017年度 通期		2018年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	13,718	100.0	15,750	100.0	+2,032	+14.8
営業利益	1,633	11.8	2,668	16.9	+1,036	+63.4
税引前利益	1,678	12.2	2,673	17.0	+995	+59.3
当社株主に帰属する 当期純利益	1,461	10.6	2,069	13.1	+608	+41.6

# 売上・受注・注残推移（四半期）



# 製品別受注高推移



# 製品別売上高（2018年度通期）



	2017年度 通期		2018年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	4,498	32.9	5,742	36.5	+1,244	+27.7
圧電製品	1,520	11.1	1,386	8.8	▲134	▲8.8
その他コンポーネント	3,223	23.6	3,922	25.0	+699	+21.7
通信モジュール	3,950	28.9	4,255	27.1	+305	+7.7
電源他モジュール	489	3.5	412	2.6	▲76	▲15.6
製品売上高計	13,680	100.0	15,717	100.0	+2,037	+14.9

# 製品別売上高概況

コンデンサ (前期比+27.7%)	○ <b>チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC)</b> カーエレクトロニクス向け、スマートフォン向け、PC向けなど幅広い用途で好調に推移し、大幅に増加
圧電製品 (前期比▲8.8%)	▲ <b>表面波フィルタ</b> スマートフォン向けで高付加価値品の数量減少や製品値下がりにより減少
その他コンポーネント (前期比+21.7%)	○ <b>リチウムイオン二次電池</b> 2017年9月からの売上計上により増加  ○ <b>MEMSセンサ</b> カーエレクトロニクス向けで増加  ▲ <b>コイル</b> ハイエンドスマートフォン向けで減少
通信モジュール (前期比+7.7%)	○ <b>樹脂多層基板/通信機器用モジュール</b> ハイエンドスマートフォンの新モデル向けで増加  ▲ <b>近距離無線通信モジュール</b> ハイエンドスマートフォン向けで減少
電源他モジュール (前期比▲15.6%)	▲ <b>電源</b> OA機器向けなどで減少

# 用途別売上高（2018年度通期）



	2017年度 通期		2018年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	666	4.9	695	4.4	+29	+4.3
通信	7,196	52.6	7,607	48.4	+411	+5.7
コンピュータ及び関連機器	2,024	14.8	2,492	15.8	+468	+23.1
カーエレクトロニクス	2,002	14.6	2,571	16.4	+570	+28.5
家電・その他	1,792	13.1	2,352	15.0	+560	+31.2
製品売上高計	13,680	100.0	15,717	100.0	+2,037	+14.9

(注) 当社推計値に基づいております

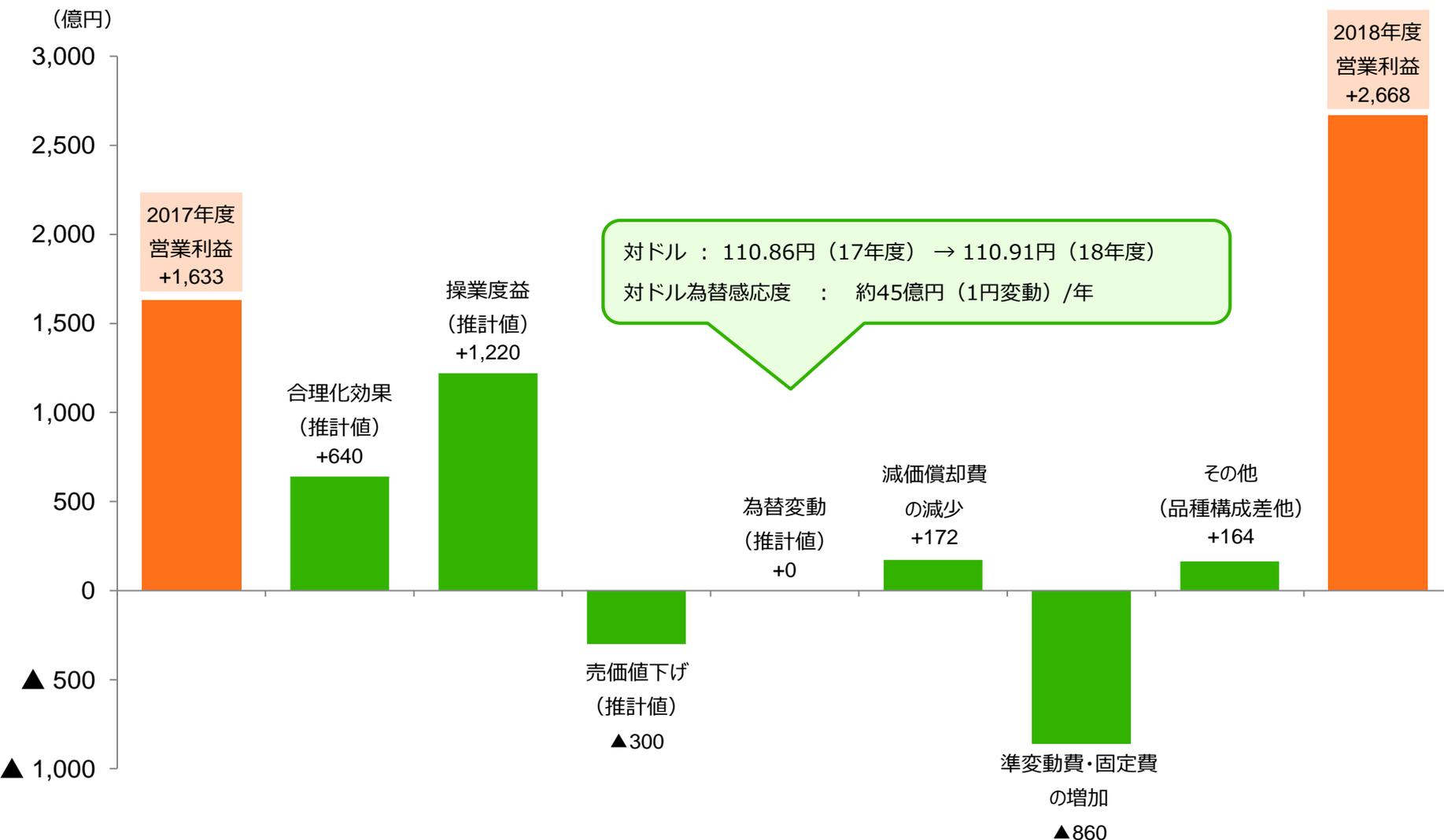
# 用途別売上高概況

<p>AV (前期比+4.3%)</p>	<p>○デジタルカメラ、ゲーム機向けでリチウムイオン二次電池が増加</p>
<p>通信 (前期比+5.7%)</p>	<p>○スマートフォン向けで樹脂多層基板、小型大容量コンデンサ、通信機器用モジュール、リチウムイオン二次電池が増加</p> <p>○基地局向けで中圧コンデンサが増加</p> <p>▲スマートフォン向けで近距離無線通信モジュール、表面波フィルタが減少</p>
<p>コンピュータ及び関連機器 (前期比+23.1%)</p>	<p>○タブレットPC向けでリチウムイオン二次電池が増加</p> <p>○幅広い用途でコンデンサが増加</p>
<p>カーエレクトロニクス (前期比+28.5%)</p>	<p>○電装化の進展により車載用コンデンサが大幅に増加</p> <p>○電動自転車向けでリチウムイオン二次電池が増加</p>

(注) 当社推計値に基づいております

# 利益変動要因

[2017年度→2018年度]



## 2. 2019年度 業績予想

(2019年4月～2020年3月)

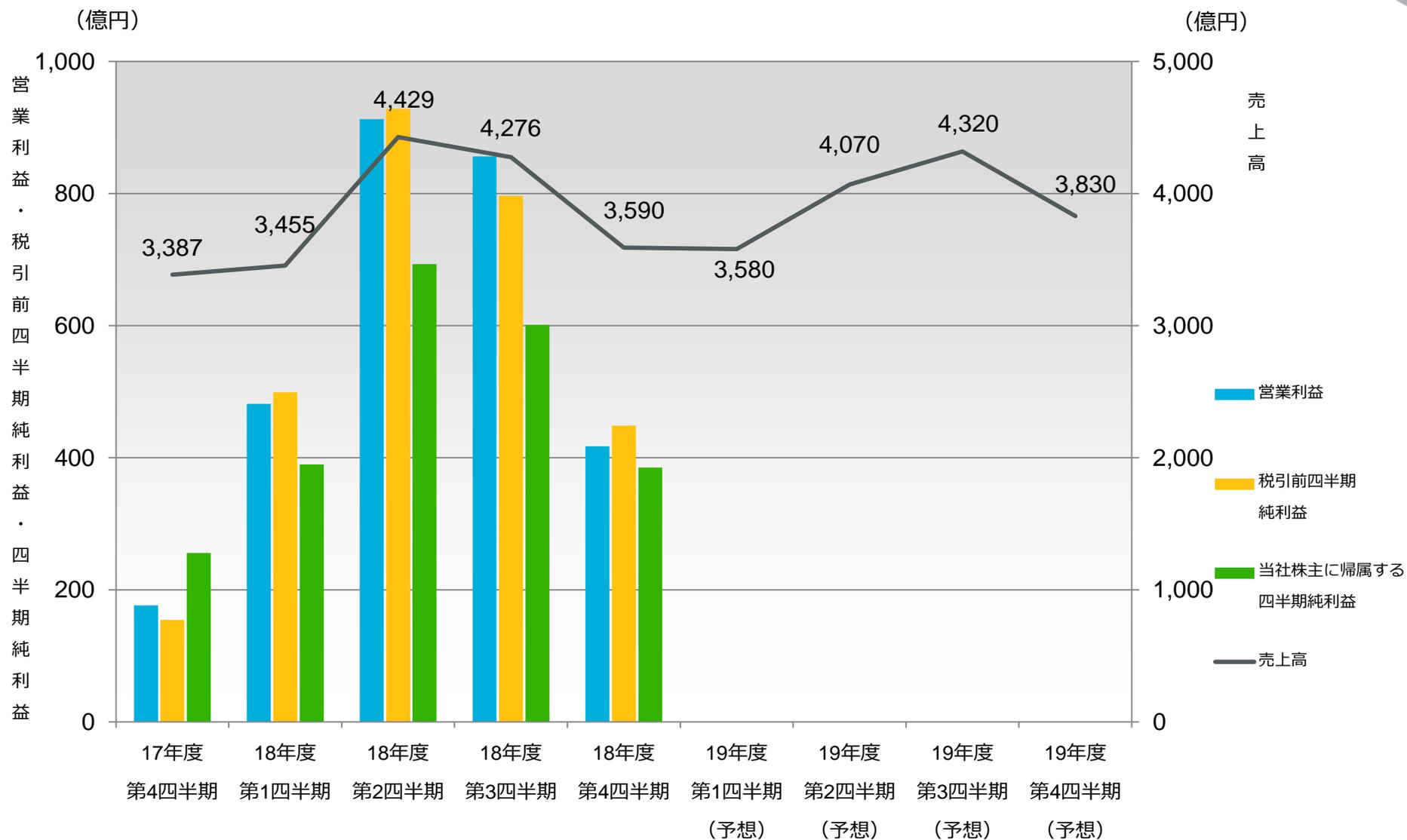
	2018年度	2019年度予想	
<b>携帯電話</b>	<b>16.1 億台</b>	<b>16.1 億台</b>	<b>横這い</b> →
2G/3G	4.0 億台	2.6 億台	▲37% ↓
LTE	12.4 億台	13.5 億台	+8% ↑
スマートフォン	13.6 億台	13.4 億台	▲2% ↓
<b>PC</b>	<b>4.1 億台</b>	<b>4.1 億台</b>	<b>▲1%</b> ↓
デスクトップ	1.0 億台	1.0 億台	▲3% ↓
ノートブック	1.6 億台	1.6 億台	横這い →
タブレット	1.5 億台	1.5 億台	▲2% ↓
<b>自動車</b>	<b>9,470 万台</b>	<b>9,500 万台</b>	<b>横這い</b> →

	2018年度 実績 (前期比)	2019年度 予想 (前期比)
コンデンサ	+28%	+8%程度
圧電製品	▲9%	▲10%程度
その他コンポーネント	+22%	+6%程度
通信モジュール	+8%	▲11%程度
電源他モジュール	▲16%	▲14%程度
製品売上高計	+15%	横這い

	2018年度 実績 (前期比)	2019年度 予想 (前期比)
A V	+4%	横這い
通信	+6%	▲7%程度
コンピュータ及び関連機器	+23%	▲1%程度
カーエレクトロニクス	+29%	+19%程度
家電・その他	+31%	+3%程度
製品売上高計	+15%	横這い

(注) 当社推計値に基づいております

# 業績推移（四半期）

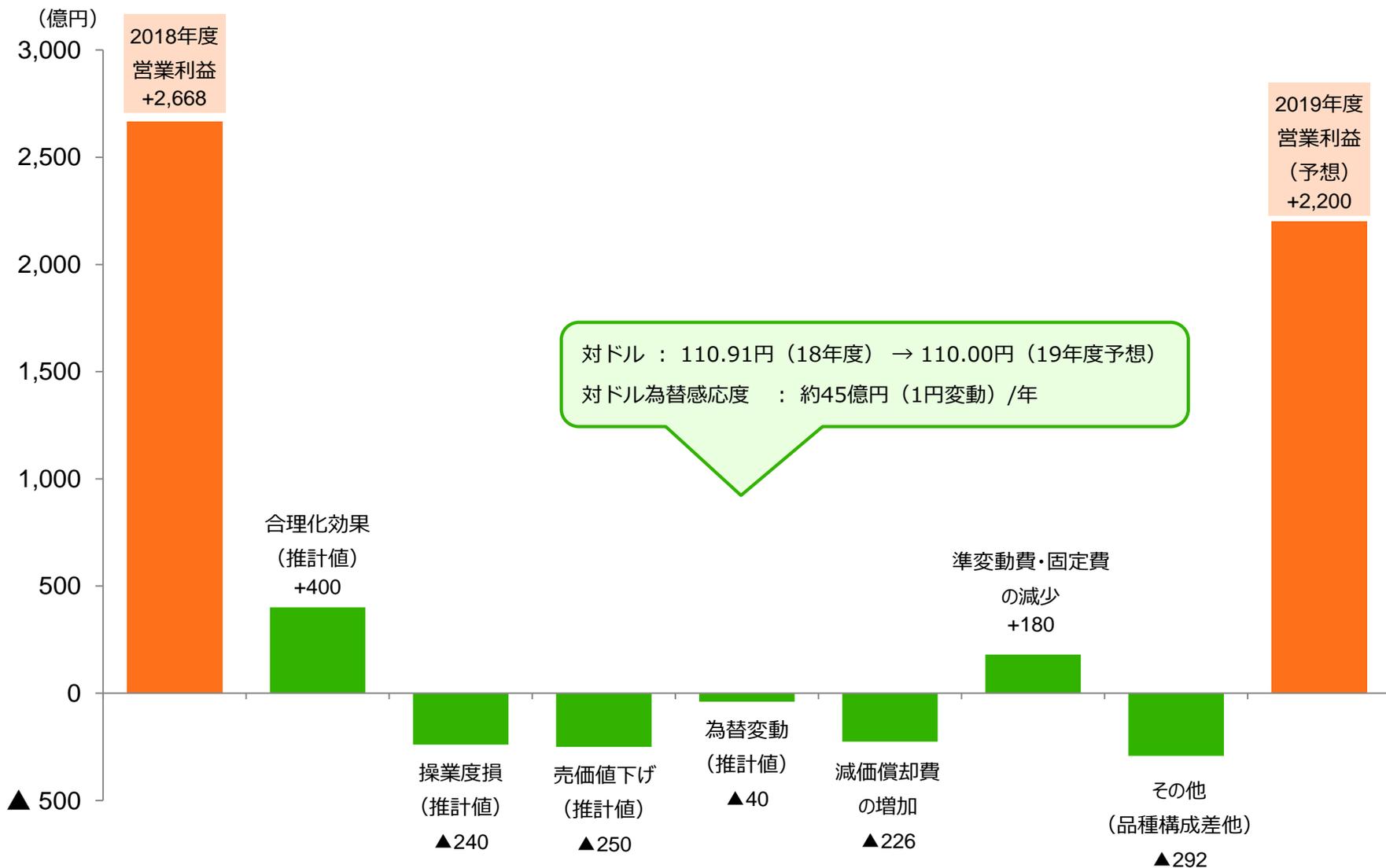


# 2019年度 業績予想

	2018年度 実績		上期予想		下期予想		2019年度 通期予想		増減	
	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	伸率		
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	15,750	100.0	7,650	8,150	15,800	100.0	+50	+0.3		
営業利益	2,668	16.9	1,155	1,045	2,200	13.9	▲468	▲17.5		
税引前当期純利益	2,673	17.0	1,165	1,055	2,220	14.1	▲453	▲17.0		
当期純利益	2,069	13.1	890	810	1,700	10.8	▲369	▲17.8		
為替 (円/USD)	110.91				110.00					

# 利益変動要因

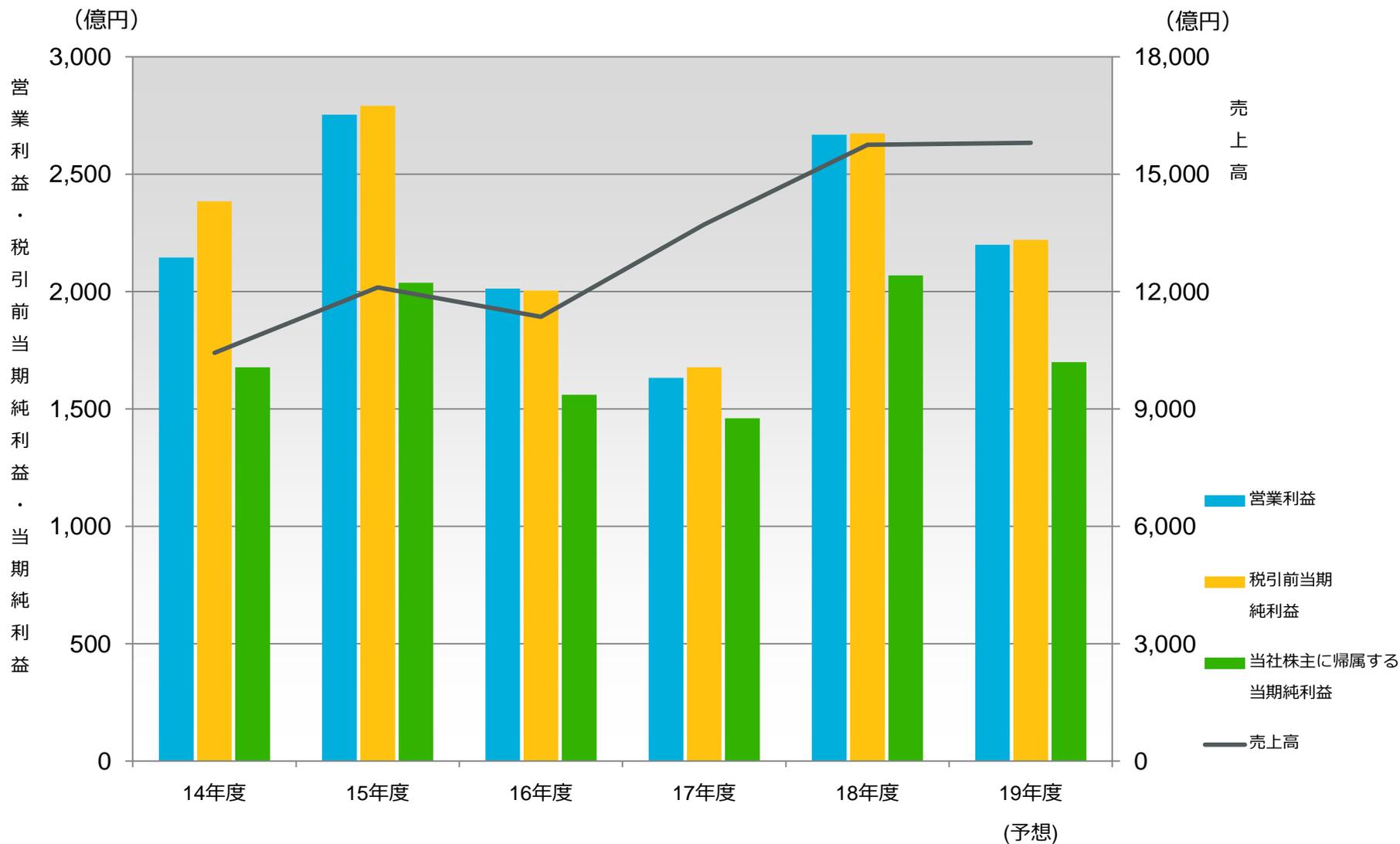
## [2018年度→2019年度予想]



# 業績予想の前提

	2018年度 実績	2019年度 予想
減価償却費	1,244 億円	1,470 億円
研究開発費	1,016 億円	1,100 億円
設備投資額	2,916 億円	3,000 億円
為替レート(USD)	110.91 円/USD	110.00 円/USD
為替レート(EUR)	128.40 円/EUR	125.00 円/EUR

# 業績推移（通期）



2019年度（2020年3月期）の配当（予定）

1株当たり年間94円

（中間配当47円／期末配当47円）

※株式分割前に換算すると1株当たり年間282円、  
前年度比で実質同額

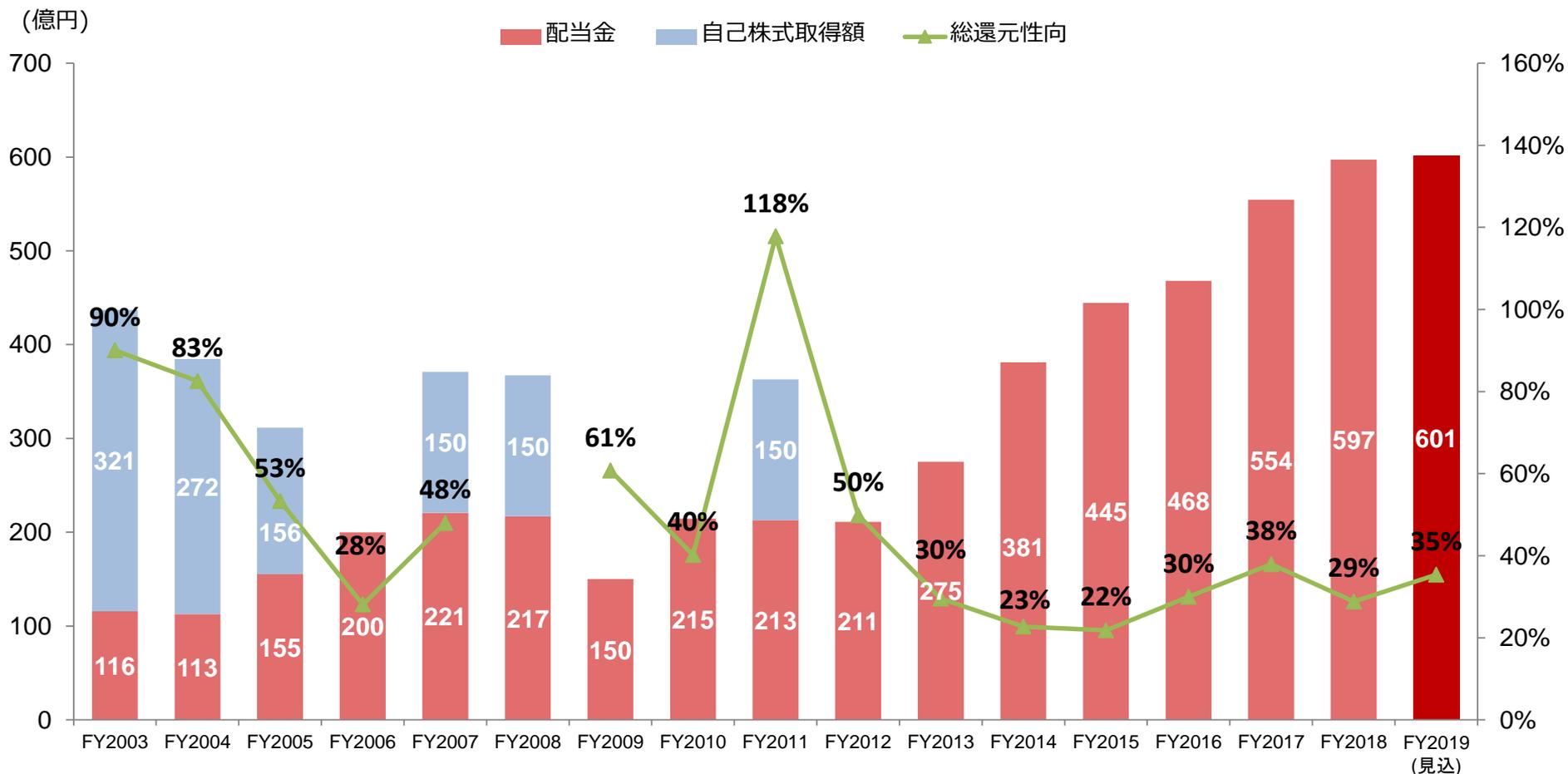
2018年度（2019年3月期）の配当

1株当たり年間280円

（中間配当140円／期末配当140円）

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

# 株主還元推移



利益還元策としては、配当による配分を優先的に考え、  
1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めます

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

